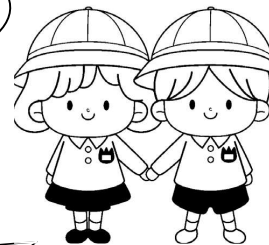


令和2年度 幼保小連携推進地区活動報告書
若草幼稚園 むつみ愛児園 宮谷小学校

「スタートプログラム」を活用した幼児期教育から
小学校教育への円滑な接続のあり方を探る

入学前の子どもたちの様子

どんなことを
するのか。



小学校って
どんなところだろう。

わくわく、
どきどきするな。

心配もあるし...

入学後すぐの子どもたちの様子

今日は、どんなことを
するのか。



知らない友達や先生
たちばかりで心配だ。

友達をたくさん
作りたいな。

心配なことが多くて、
あまり行きたくないな。

幼児期教育から小
学校教育への円滑
な接続のために

①子どもの理解

②教育内容の共有



子どものよりよい成長
を願って

③職員交流

④子ども同士の交流

子どもの理解

保育園や幼稚園への訪問

- ▶ 入学児童全員の保育園や幼稚園等へ訪問したり、連絡をしたりして、子どもたちの学びや日常の様子を見とるようにしている。

要録の活用

- ▶ 入学前に子どもたちの学びの履歴や生活の様子を把握し、小学校生活の指導や支援に生かせるようにしている

保護者との面談

- ▶ 入学前に心配や不安、わからないことがあるときは、児童専任が、窓口になり、保護者の相談にのることができるような組織づくり

養育センター等への訪問

はじめの1ヶ月は、仮のクラスで

子どもへの理解を深め、きめ細やかな対応ができるように

同じ保育園や幼稚園の友達が同じクラスにいて安心できるように。

- 入学後1か月間を（そら・ほし・はな・つき）の仮の学級で過ごす。
- スタートカリキュラムを取り入れて、学校生活を送る。

学年の担任が数日ずつ順番にクラスに入り、学年全体の児童とかわり、顔なじみの関係づくり

どのクラスも同じ学習計画・同じ指導を行うので、子どもも保護者も安心できる。

高学年専科の入学後1か月間のサポート（学校全体で入学児童を見守る組織づくり）→各クラス2人の職員体制



生まれ月への配慮

要録や保育園や幼稚園の訪問を参考に子どもへの対応をかんがえる。

1か月後、子どもの様子を見ながら **本編成**

教育内容の共有

○スタートプログラムの見直しと実施

職員交流でそれぞれの幼稚園や保育園の教育内容をもとに、スタートカリキュラムを見直し、実施。

幼稚園、保育園、小学校に同じ本を置くことで、子どもたちが、本を身近に感じられるだけでなく、小学校も身近に感じられるように。

***なかよしタイム**・・・新しい先生や友達との関係を広げていく時間

手遊び、歌、本の読み聞かせなどから一日がスタート

***わくわくタイム**...主体的な学びをつくっていくために生活科を中心に他教科と関連させながら教科学習に円滑につなげていく時間

学校探検などをして、学校の生活のマナーやきまりを確認できるように

***ぐんぐんタイム**...なかよしタイムやわくわくタイムで興味をもったことをもとに教科学習へ徐々に移行し、教科等の見方や考え方を身につけていく時間

教の学習やひらがな学習

幼保小交流会

- ▶ 今年度は、感染症予防の観点から、動画での交流会とした。

実行委員会の立ち上げ

保育園や幼稚園の子が喜んでくれたり、楽しんでくれたりすることってどんなことかな。



クラスで話し合ってみよう

今年の保育園や幼稚園の友達との交流会は、どんな会にしようかな。

交流会の動画づくりにむけてのクラスでの話し合い

学校での勉強の様子も伝えたいな。

小学校の素敵な場所を紹介したいな

学校での1日の過ごし方を紹介するってどうかな。

おすすめの給食について紹介したいな

プレゼントも作って送りたいな

各クラスでの交流会に向けての動画づくり

入学式や体育の時間に使う体育館の紹介をするのもいいね。



1年生の教室もどんな様子が教えてあげたいね。1年生は、お花も育てるよ。



昔遊びで遊んだぶんぶんごまを、保育園や幼稚園の友達にも作ってプレゼントして、楽しんでもらう。

職員交流

- ▶ 顔の見える関係づくり
○職員同士が顔見知りになることで、気軽に声をかけたり、相談しやすくなった。

- ▶ 子どもたちの成長の様子の共有
○子どもたちの成長の様子を共有することで、教育内容の改善を図ったり、子どもたちへのさらなる支援の仕方を工夫することができた。

成果と課題

- 教職員の直接の対話によって、子どもたちの学びの履歴や子どもたちの成長の様子について共通理解が得られたことで、スタートカリキュラムなどの改善につながった。
- 入学前の子どもの様子を事前に把握することで、個々の子どもにどのように接していけばよいかなどを職員で共有することができた。
- 園児にとって、繰り返し小学校と関わることで就学への安心感につながっていくと考えられるが、今年度は、直接交流の機会がなかなか取れなかったのが課題として残る。
- 入学直後の子どもたちのつまずきなどにどのように対応していくのかさらに、幼稚園や保育園での学びや対応の仕方について情報交換する必要がある。